

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 9月 27日
- 事業名 : 様々な困難を抱える家庭への横断的な支援を可能にする総合支援施設事業
- 資金分配団体 : 特定非営利活動法人ひろしま NPO センター
- 実行団体 : 特定非営利活動法人あかね

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
①物件取得を通じて経営の安定化を図ることによる「職員人数の増加」	常勤スタッフ数	3名	2023年8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物件取得完了：2022年3月3日 現在、物件の補修及び、法令関連設備を増設中</li> <li>●既存事業については各事業部にリーダー設置完了 新規事業については、新規職員を募集中</li> </ul>	2
②最大支援可能人数の増加	最大支援可能人数	100名	2023年8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2022年3月に新規施設で試験的に事業を開始（個別相談会開催）</li> <li>●現状の最大支援可能人数：60名</li> <li>●事業計画の作成中：2022年4月～10月頃</li> <li>●部分的な利用開始：2023年6月頃～</li> </ul>	2
③分野／制度横断的な支援の仕組み構築を開始し、それに基づき支援を受けた「子どもたちの変化」を確認するためのアンケートの実施と回収率	アンケート回収率	保護者を対象にアンケートを実施する（回収率70%）	2023年8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●応能負担の仕組みの検討中。：2022年4月～10月頃</li> <li>●今後のスケジュール                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・応能負担の仕組みの計画作成：2023年4～7月頃</li> <li>・総合支援施設での活動内容の評価（アンケート等で子どもたちの変化を確認）：2023年8月～11月頃</li> </ul> </li> </ul>	3

\* 進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み												
3.課題がある												
2.アウトカムの状況												
A:変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値												
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点												
<table border="0"><tr><td>・ 来所時の手指消毒/体温管理及び記録実施</td><td>・ おやつ等の食事の提供中止/飲み物は個別のペットボトル配布</td></tr><tr><td>・ 密にならないような机のレイアウト変更</td><td>・ 密にならないよう指導の分散化（6カ所へ分散化）</td></tr><tr><td>・ 子どもたちへ密にならない距離感や、除菌の指導</td><td>・ 開所前後で全体の除菌実施</td></tr><tr><td>・ 机単位に岡山県蔓延防止措置5つの『岡山ルール』の掲示</td><td>・ 常時窓の開放及び、エアコンの運転</td></tr><tr><td>・ 机上にアクリルパーテーション/除菌スプレー/除菌シート設置</td><td></td></tr><tr><td>・ トイレの手拭きタオルの除去及び、使い捨てペーパータオル/除菌ジェル設置</td><td>・ 定期的な手指消毒の指導及び実施</td></tr></table>	・ 来所時の手指消毒/体温管理及び記録実施	・ おやつ等の食事の提供中止/飲み物は個別のペットボトル配布	・ 密にならないような机のレイアウト変更	・ 密にならないよう指導の分散化（6カ所へ分散化）	・ 子どもたちへ密にならない距離感や、除菌の指導	・ 開所前後で全体の除菌実施	・ 机単位に岡山県蔓延防止措置5つの『岡山ルール』の掲示	・ 常時窓の開放及び、エアコンの運転	・ 机上にアクリルパーテーション/除菌スプレー/除菌シート設置		・ トイレの手拭きタオルの除去及び、使い捨てペーパータオル/除菌ジェル設置	・ 定期的な手指消毒の指導及び実施
・ 来所時の手指消毒/体温管理及び記録実施	・ おやつ等の食事の提供中止/飲み物は個別のペットボトル配布											
・ 密にならないような机のレイアウト変更	・ 密にならないよう指導の分散化（6カ所へ分散化）											
・ 子どもたちへ密にならない距離感や、除菌の指導	・ 開所前後で全体の除菌実施											
・ 机単位に岡山県蔓延防止措置5つの『岡山ルール』の掲示	・ 常時窓の開放及び、エアコンの運転											
・ 机上にアクリルパーテーション/除菌スプレー/除菌シート設置												
・ トイレの手拭きタオルの除去及び、使い捨てペーパータオル/除菌ジェル設置	・ 定期的な手指消毒の指導及び実施											

## ③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

特になし

2.広報制作物等

●あかね会報誌（2022年5月発行号）

『あかねの新拠点、そしてこれから』

寄付者向けに発行している会報誌で、新拠点について案内を掲載した。

3.報告書等

特になし

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部/ 外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
外部	事前評価に関する専門的知見からの アドバイス提供	水野文一郎	NPO 法人岡山高等学院 理事 就労継続支援 B 型事務所 ももの里 MADO サービス管理責任者
外部	事前評価に関する専門的知見からの アドバイス提供	大森浩史	特定非営利活動法人杜の家 理事長 就労継続支援 A 型杜の家ファーム 理事 長 放課後等デイサービスりゅうそう放課後 ラボ 理事長 就労継続支援 B 型晴れの国 理事長
内部	評価全体の進行管理/ ワークショップファシリテート/ 関係者ヒアリング/ 評価報告作成	中山遼	特定非営利活動法人あかね 理事
内部	ワークショップ参加者/ 関係者ヒアリング/ 評価報告作成	古山丈朗	特定非営利活動法人あかね 総務部

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
①運営体制の安定化	責任者として現場を取り回せるリーダー数	事業部毎にリーダー設置	2023年8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各事業部へのリーダー設置は完了。</li> <li>●各リーダーの状況 徐々に現場を取り回せるようになってきている。</li> <li>●今後の予定 今後始める新規事業でもリーダーが必要であるため、今後も募集予定。 リーダーとしてのスキルチェックリストを作成予定。</li> <li>●リーダーに求められるスキルなど 現在の事業体系を踏まえると、子どもの総合支援施設の柱として、他事業との連携やコントロールができる能力と、児童発達支援管理責任者の資格が必要である。アドバイザーからは、能力・資格に加え人柄が重要との助言もあった。資格以外は一般公募では判断し難いため、現在、関係性のある人物の能力の分析、資格有無や資格取得可能かの確認を行っている。</li> </ul>
②支援人数の増加	支援実人数	80名	2023年8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新拠点で相談会を試験的に実施している。</li> <li>●現在の支援実人数と今後の見通し 現在の支援実人数は60名。枠は満杯となり、現在空き待ち状態である。今後、新拠点への移転により、目標値の80名は達成できる見込みである。</li> </ul>

③中期アウトカムに向けた子ども変化の兆し	保護者アンケートによる、変化の実感	「事業を利用し始めて変化があった」という設問に対して、「少しあった」「あった」と選択した保護者の数が5名	2023年8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者に対しアンケートを実施予定。現在は、実施に向けて、アンケートを準備している段階である。中間評価ではアンケートでの確認項目について、アドバイザーから意見をいただいた。今後、継続してアドバイザーと相談し、項目を選定・確定していく予定である。</li> <li>●アドバイザーからの助言 当法人の利用者は思春期・反抗期を迎える子どもも多いため、そういった子どもを持つ親に対するアンケートであると想定し、アンケート項目には工夫が必要であるとの助言を受けた。確認方法や確認すべき点の大枠についても助言を得ることができた。</li> </ul>
----------------------	-------------------	--	---------	---



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
①運営体制の安定化	<p>当初の計画通り、既存の事業部毎にリーダー設置できており、育成も実施でき、予定していた達成度である。</p> <p>今後整備する子どもの総合支援施設におけるリーダーについては、資格・能力・人柄等の必要なスキルを整理すると共に、これまでのネットワークを生かしながら職員を探す予定である。</p>	<p>各事業にリーダー設置完了し、各リーダーは徐々に現場を取り回せ始めている。</p> <p>今後、放課後等デイサービスのリーダーを募集する予定であったが、子どもの総合支援施設の柱として、他事業との連携やコントロールできる能力がある人柄の良い有資格者が必要であるが、資格以外は一般公募では人選が困難であるため、現在、関係性のある人物の能力の分析、資格有無や資格取得可能かの確認を行っており、時間を要している。</p>



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	<p>運営体制の安定化として、子どもの総合支援施設の柱となる人物且つ新規事業におけるリーダーとして、下記の人材が必要となる。採用に向けて、適当な人材を探しているが、未だ見つけられていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの総合支援施設の柱として、他事業との連携やコントロールの適性がある</li> <li>・他の事業も理解し、当法人の方向性に沿える</li> <li>・児童発達管理責任者の資格</li> <li>・人柄が良い</li> </ul> <p>今後の対応としては、リーダー育成も視野に入れ、採用面接や、リーダーとしてのスキルを確認する際などに、こういったことを大切にしているかなどを、洗い出して言語化、整理する。リーダーとしてのスキルチェックリストとして整理する予定。</p>

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
②支援人数の増加	<p>新拠点への移転により支援実人数の増加や、放課後等デイサービスを開業予定であるため、更なる増加を見込めることで、目標値は達成できると判断している。</p>	<p>現状の支援実人数は60名であり、枠は満杯となり、現在空き待ち状態となっている。新拠点への移転により、目標値の80名は達成できる見込みである。</p> <p>更に新拠点では他の事業とも連携した放課後等デイサービスを開業するため更なる増加が見込める。</p>



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>現在の支援実人数は 60 名であり、支援可能枠が満杯となっており、空き待ち状態となっている。新拠点への移転により、対応できる部屋数が増加することで支援可能枠が拡大し、目標値の 80 名は達成できる見込みである。</p> <p>更に新拠点では単に放課後等デイサービスを開業するのではなく他の事業とも連携することで、応能負担の仕組みを利用した利用者の負担軽減や同一活動同一評価となる放課後等デイサービス事業となるため、更なる利用が見込まれる。</p>

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
<p>③中期アウトカムに向けた子ども変化の兆し</p>	<p>運営基盤ができ、今後に向け、保護者へアンケートを実施し、子ども達の変化や支援の在り方について検討を行う材料とすることにより、目標値はおおむね達成できると判断している。</p>	<p>制度横断できる子どもの総合支援施設とすることで、応能負担の仕組や学校内で一定の評価を得ることができる運営基盤ができる。今後に向けては保護者へアンケートを実施し、子ども達の変化や支援の在り方について検討を行う材料とする。</p>



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li></ul> <p>と自己評価する</p>	<p>アドバイザーより、制度の異なる居場所・フリースクール事業、岡山市子どもの学習サポート事業、放課後等デイサービス事業を有機的につなげて、困難のある子どもに対して適切な支援を届けられる子どもの総合支援施設とすることで、応能負担の仕組みや当施設の活動内容が学校内で一定の評価を得ることが可能である認識を頂いている。</p> <p>これらを運営し、保護者へアンケートの実施により、子ども達の変化や支援の在り方について検討を行う。思春期を迎える子どもも多いため反抗期の子どもをもつ親に対するアンケートを想定し、保護者のフィルターがかかりづらい方法で確認できるよう、アンケート項目は工夫をしながら作成したい。アンケートについては、今後もアドバイザーと相談し、項目を選定していくこととしている。</p>



## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	・アウトカム達成に必要な拠点が実現できているか。	<p>●拠点の立地及び設備としては、及第点であると判断している。</p> <p>●同一活動・同一評価における要点のひとつである『出席扱い』について、運用実態が一定明らかとなった。引き続き、教育委員会からの通知に注視しつつ、学校にも意見を聞きながら、仕組みづくりについて検討を進める。</p>	<p>■<u>拠点について</u></p> <p>【アドバイザーからの助言】</p> <p>実際の運営イメージと改修後の物件を照らし合わせ、立地条件も良く、広さもある物件であり、妥当な補修内容であると評価を頂いた。一方で下記の部分においては行政より指摘を受ける可能性があり、更なる補修の必要性があるかもしれないと助言があった。</p> <p>①階段が狭くて急であること</p> <p>②バリアフリーでないこと</p> <p>【対応】</p> <p>上記については、事業指導課と後日調整を行うこととする。また、近隣の月極駐車場は高額か、安価な場所は空きがないため、今後の課題としては、必要台数の駐車場の確保であると判断している。</p> <p>■「<u>同一活動・同一評価</u>」の要点整理</p> <p>同一活動・同一評価を実現するために重要になる一つは『出席扱い』にあると判断している。</p> <p>現在、文部科学省(以下、文科省)において出席扱いの取り扱いについては、校長の専決事項として出席扱いとすることができる旨が定められている。しかし、学校長が市教育委員会(以下、市教委)との相談の中で、実質的に市教委に止められたことで出席扱いが実現されなかったケースが散見されている。</p> <p>このため、文科省の通知に反して、学校及び市教委という現場において別の運用がされている状況の実態を明らかにすべく各学校の校長または教頭へのヒアリングを行った。</p> <p>ヒアリング内容は、匿名(役職含む)で5校5名に半構造化面接によって行った。その結果、5名中4名から、岡山市の場合、学校側がその施</p>

			<p>設や支援内容が出席扱いの条件を満たしているか調査する時間がないために、関連施設(教育支援センターや岡山市が連携している民間施設)への”通室”が出席扱いとなるという市教委の判断に従うことが慣例として定着しているとの趣旨の回答が得られた。</p> <p>また、1名の回答として上記の慣例が存在をすることを前提にしたうえで、学校として、慣例にない例えばリモートでの支援を文科省の通知にある校長の専決事項として、出席扱いを認めた場合、その事例が他の学校の保護者に知れ、その他の学校長に「〇〇学校では出席扱いにしてもらえた」と要求があった場合、その学校長が非常に難しい判断を迫られる。またはその逆のケースを想定し、互いに迷惑をかけないために慣例に従っているものと思われるとの趣旨の回答が得られた。</p> <p>一方、このヒアリングの以前と最中にも議員や他のフリースクールなどと問題について、何度も教育委員会に提言をしていたこともあってか、8月中に市教委から新たな通知が学校に送られ、今までの通知には「学校と教育委員会が協議して判断を行う」という文言が存在したが、今回の通知にはその文言が削除されていたため、その通知がどのように今後影響を及ぼすのかを注視する必要があると思われる。</p>
<p>実施をとおした活動の改善、知見の共有</p>	<p>・アウトプットは計画どおり産出されているか。</p> <p>・意図した対象者に事業は届いているか。</p>	<p>アドバイザーからの助言に踏まえ、右記のような具体的な対応を実施することで、事業開始が円滑に行えると判断している。</p>	<p><b>■広報戦略 (利用に繋がりたいが繋がっていない層に対して、どのような広報をすると適切に情報を届けられ利用に繋がられるか) について</b></p> <p><b>【アドバイザーからの助言】</b></p> <p>以下の実施について助言を得た。</p> <p>①利用促進に向け、施設改修後に事前説明会や予約受付実施</p> <p>②学校へのアプローチとして、小中学校の校長会の会長や校長のOB会と連携した方が良い</p> <p><b>【対応】</b></p> <p>アドバイザーの意見を踏まえて、今後以下に取り組む予定である。</p> <p>●広報活動について</p> <p>①(1) 現利用者への広報について:ある程度固まったら「拠点見学会&amp;体験会」、「説明会」、「会報誌への掲載」を実施する予定。2023年度</p>

			<p>の取組として実施予定。</p> <p>①(2) 自立支援協議会での広報：アドバイザー兼理事の大森さんから繋いでいただく予定。事業概要などが決まったら連れて行ってもらえる予定。(協議会の開催時期は未確認だが、ある程度定期的に開催されている会議である)</p> <p>②学校との連携：現在も校長会（岡山市）に出席しているので、そこで説明をする予定。</p> <p>●見学会（利用者向け）について  拠点が移ること自体で総合拠点化できる部分もある。できるだけ早く実施したいと考えており、遅くとも 2023 年春くらいに実施できればと考えている。あかねの次回の内部会議で協議をする予定。主に居場所や学習支援で来られる方に案内をする予定だが、詳細な対象者も追って調整をする。自主事業の居場所や学習支援などについて、各家庭にこまかなご案内をするイメージである。</p> <p>●見学会（運営スタッフ向け）について  ボランティア(15名)や委託スタッフ(25名)に向けた説明会を予定。上記よりも早い段階で実施予定。今年中くらいの開催を目標にしている。(現状は、拠点の動画や写真を撮って共有している。)</p> <p>●説明会について  放デイと居場所に関する利用説明会を予定している。こちらは、2023 年度中の開催を目標にしている。(放デイは 2024 年度春からの開始を見込んで準備を進めているため)</p> <p>●広報ツールについて  見学会の件とあわせてパンフレットや web での広報ツールについても、次回の内部会議で協議する予定。  通信（＝寄付者向け会報誌）には案内を出した。(PDF データあり)</p>
--	--	--	--

			<p><b>■社会参加を実現するためにどういう支援が有効か</b></p> <p><b>【アドバイザーからの助言】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的参加に向けては、職安や障がい者福祉における就労支援事業所との連携が必要。</li> <li>・コミュニケーション面の寄り添いや、本人の興味があることへの見通しを立てる等出来れば良い。あと<u>思春期の子の相談</u>ができる事業所は少ないので、そのあたりに特化すると良い。</li> </ul> <p><b>【対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●思春期の子どもたちへの対応：元々取り組んでいる部分ではあるが、思春期などのサポートをより丁寧に進める。放デイの仕組みも活用しながら、自主事業のみでは利用できなかった当事者にも、利用してもらえるようにする。</li> <li>●出口支援の強化：高校生の子たちなど、就労に繋ぐための支援を強化したい。これまでもハローワークやサポートステーションとの繋がりはあったが強い繋がりではない。放デイの仕組みも活用開始すると「就労移行支援（A型・B型）」とも強い連携が必要になりそうであるため、今から顔の見える関係をつくっていく。</li> </ul> <p><b>■利用者の変化を確認するための保護者アンケートについて</b></p> <p>アンケートで確認すべき事項として以下アドバイザーより助言を得た。</p> <p><b>【アドバイザーからの助言】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●親子の会話が増えたか。外出が増えたか。親の前に意味もなく来るようになったか。（親には本音を話さない子の方が多い。親の居ないところで色々活動をすると思うので、その兆候があれば良いと思う）</li> <li>●個別の支援計画をもとに、保護者、本人との面談で確認</li> </ul> <p><b>【対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●確認項目：保護者もある種当事者なので、工夫が必要ということがわかった。助言の通り親御さんも気付いていないが具体的な行動としての「変化」を確認するなどしていきたい。（親御さんが自覚している変</li> </ul>
--	--	--	--

			<p>化を尋ねると親御さんのフィルターがかかってしまう。それを避けるため。)</p> <p>●方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Google フォームでの確認を予定している。</li> <li>・ 新拠点を利用始めた方に 1 回だけ確認する</li> <li>・ 進めるにあたって、今回取り組んでいる「<u>応能負担の仕組み</u>」については、<u>言語化</u>して説明できるようにしておく。(支援者共有用)</li> </ul> <p>●アンケート作成スケジュール</p> <p>①2022 年 11 月～年明けにかけて作成開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大森さんに意見をいただきつつ項目検討</li> <li>・ 別途ヒアリングやメールで進める。(中山さん・古山さん担当)</li> </ul> <p>②2023 年 早目の時期 利用者向け見学会</p> <p>③2023 年 春以降～ 新拠点で相談会開催・南区利用者の面談などは新拠点で実施するかもしれない(未定)。茶話会(現利用者・新規混合)なども予定。</p> <p>④2023 年 9 月頃 新拠点を本格運用 &amp; 利用開始</p> <p>⑤2023 年 秋頃 保護者向けアンケート</p> <p>④2023 年 12 月頃 最終評価報告 〆切</p>
<p>組織基盤強化・ 環境整備</p>	<p>・ 人材は育っているか</p>	<p>既存事業へ配置したリーダーは順調に育っていると判断している。しかしながら、次に着手する放課後等デイサービスの人員については、大きな課題があると判断し、早期対応が必要であると判断し、</p>	<p>■「<u>社会参加を果たすための支援</u>」を担うリーダーとして必要な<u>スキルについて</u></p> <p>総合支援施設の柱として、他事業との連携やコントロールの適性があり、且つ当法人の事業の方向性に沿える児童発達支援管理責任者の資格のある人物が必要となる。</p> <p>【アドバイザーからの助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●インクルーシブ教育の知識、スキルは、絶対必須。</li> <li>●専門的な知識は一通り身につけていただくほうが良い。福祉サービスについての法令は一通り読んでいただく方が良い。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●研修的に実施するかどうかなど、詳細は今後も引き続きアドバイザー</li> </ul>

		前倒しで対応を行っているが、現在結果に結びついていない状況である。	に助言をいただきながら検討を進める。 ●今後の予定 ①「リーダーとしてのスキルチェックリスト」を作成。 採用面接や、リーダーとしてのスキルを確認する際などに、どういったことを大切にしているかなどを、洗い出して言語化、整理してみる。 ②最終評価頃に、作成したリストに基づき、各リーダーに自己評価をしてみよう。
--	--	-----------------------------------	---

## ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

●拠点として想定していた以上の立地の良さ・広さ・部屋数の物件が確保できたが、立地が良いため近隣の月極駐車場が空いていても高額な場所か、安い場所は空きがない状態であり、必要台数の確保が課題であると判断している。  
これについては、一旦高い駐車場を借りておき、空き状況を確認して徐々に安い場所へ乗り換えていくことで、維持費軽減を図る予定である。

### ●学校との連携について

これまでも校長会に出席したり、スクールカウンセラーとして学校運営の一部に携わるなど、事業実施する上で一定程度の連携と信頼があった。そのため、今回の取組を進めるにあたって、比較的スムーズに学校教員から意見を聞くことが可能となった。

## ③ 事前評価時には想定していなかった成果

拠点として想定していた以上の立地の良さ・広さ・部屋数の物件が確保できたことは、利用者の利便性や集客にも大いに貢献できる大きな成果であると判断している。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li> <li><input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する</li> </ul>	<p>組織基盤強化・環境整備面において、現在対応している、子どもの総合支援施設の柱として、他事業との連携やコントロールの適性があり、且つ当法人の事業の方向性に沿えるような放課後等デイサービスの児童発達支援管理責任者の人材の目途が立っていないのが、課題であると判断している。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

子どもの総合支援施設の柱として、他事業との連携やコントロールの適性があり、且つ当法人の事業の方向性に沿えるような放課後等デイサービスの児童発達支援管理責任者を求めている。現在対応中である関係性のある人物の分析、資格有無や資格取得可能かの確認が早急に取り組まなければならない事項であると判断している。また、児童発達支援管理責任者の人選については、今後の施設の方向性を大きく左右する為、慎重に人選にする必要があると判断している。

適切な人材の採用と育成に繋げるために、今後の対応として、「リーダーとしてのスキルチェックリスト」の作成を予定している。採用面接や、リーダーとしてのスキルを確認する際などに、こういったことを大切にしているかなどを、洗い出して言語化、整理したい。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

●新拠点にて試験的に個別相談会を実施しました。



●新拠点の1Fの部屋を事務所として整備しました。





●新拠点の 2F・3F へ自動火災報知設備を整備し、安全性が向上しました。

